

912.3
7

江心
寶
分
藥
石
子

道安



志安 曲出一程
位極一若

道安見都
相與當念
依心別志
感由家作
路心心
胡馬

きく世のぶらぶらの交遊も妙成や
あ鳴の道ありあけのきとけき
まの三十一文字の祓き奇蹟しる
て無見頂相の如きも感得る
君も安んずる萬民時をたのびし
田満の雲のきり雲海八咫の所也も
浪のき萬歳乃颯音のきけりわん

上テ
今とくくくく代久あろろり
あろろ道とくまろろり東南
海の西北よりあろろり
ゆや祀も常盤乃山松苑若きま
色区も是れ祓の詠まろろりや天
地と動ろる祀も感とあろろりや
空やろるる山賦ろるる家路いつるの

志賀の山越えも同じ花そのの里も
春めく色つる海の志賀幸傳れ松
の庭も子拜の春歌のかけらよ海
あふらんてそしる鏡山 年へわら
ゆき芳ぐさ されき芳ぐさ
志賀の^{新上}神のちるゆかまも
か^上けのや神樂のまひ^上物^上

あつらふ入ぐぐだまきの奇れ水
日も^上疎^上私えりあ^上らよ^上 実借^上
乃^上君^上代^上の^上長^上閑^上き^上ま^上や^上あ^上る^上花^上の^上
塵^上ま^上り^上の^上わ^上ち^上あ^上ら^上ら^上じ^上あ^上と^上道^上も
さ^上ら^上せ^上よ^上 実^上心^上よ^上ま^上の^上風^上聲^上も
ふ^上ら^上う^上神^上樂^上の^上小^上長^上の^上ち^上る^上もの
を^上し^上て^上 祀^上る^上ま^上と^上海^上歌^上白^上和^上帶^上

松さくらさくらさくら
 音私幣かきやう
 むや梓ゆきさくら山邊さくら
 道もさくらさくらさくら
 さくらさくらさくら
 拍子さくらさくらさくら
 かあでうれく

實感

曲出二ノ拍子
佐早強五

位席破

支西方八十萬億去遠くさくらさくら
 さくらさくらさくら
 群集乃称名の拜 日と夜との法乃
 あり 空をしまささよ 持た不捨衆
 佛より御名を事ねまきくさくらさくら
 さくらさくらさくら

歸らば法の場にもきくぬと心引探りの
綱より人まきや知人こそきくぬとこそ
度こそや彼國へゆく法の舟はよも
道こそやく 望教つらうまきこ
孤雲のよる夜まゆと落日の前意
なごやまよもよ染雲のまきこ
鐘の音念仏のきれやとゆらぐを

聴因もとゆへしゆらぐとたりきらわ

吾まきけ乃法のきもつらへ法の場り

がうらなうらもや聴やまきし一念称名乃

持乃うらよの探取の光的曇らねらも

若眼乃通路なととつとあうらあら

がりくもくは過くともくともく事

きりゆきやるまありん松 ありま

らやらきききき其実盛の深は前なる

他水うく整頓ともはれとあり

らき其執心跡アキキキ今とひら

アウ入るまらうのこもるも

備しも人々を作シテ十一ニ一山亦其

権五十二ニ一反る中三ニ一はこれ

た若木ともれと流きよ中十一ニ一あり

屋母さ其盛の者ともつらぬ清きもの

うへとも思ひよるよゆらぬま

り又母さたら其實盛の其徳あうく

まへぬとも 我々盛の徳実あう

毫の真途よるかう腕ハ汝世へ

らくまりて 執心五十二ニ一の圖字の世よ

百余年の程もあはれ中十一ニ一ひも

かろくちのさきさきとていふも余人のまよひを

すもきとていふ人のまよひをいふ

みもきとていふ人のまよひをいふ

若木若草のまよひをいふ

をろくちのまよひをいふ

月乃え燈の陰 闇のまよひをいふ

錦のまよひをいふ

まて玉作のたろくちのまよひをいふ

とていふ人のまよひをいふ

たろくちのまよひをいふ

朽もきのまよひをいふ

まろくちのまよひをいふ

即成す言を罪とていふ人のまよひをいふ

とていふ人のまよひをいふ

Handwritten Chinese text in cursive script, likely a list or index. The characters are arranged in approximately seven horizontal lines. Some characters are highlighted with red ink, possibly indicating specific entries or corrections. The text is dense and difficult to decipher due to the cursive style.

Handwritten Chinese text in cursive script, continuing the list or index from the previous page. The characters are arranged in approximately seven horizontal lines. Some characters are highlighted with red ink. The text is dense and difficult to decipher due to the cursive style.

錦の旗を今も穉山よきらるしまゝいふ
威へらるるも國のたまひあまかられなる
しりあうぬ念反来代よ方のの月を
とうく懺悔お稽申さす上筆地さる懺悔の
おひらるるぬ底清く濁りさう
たまひあままその執心乃修ぬらみら
がまらるるまままま木常とくまじと

たうましま手塚りまらるるまあまま
念まひまあまままくまつまあまれまくま
名のちま中まよまもまあまままとまくままま手塚ぬま郎ま
えま威ま郎ま等まちま主まとまくまままとまくままま
あまらまるまるまくまあま威まとまあまらまてまらまむま
あまらまるまあまらまれまままのままま日ま中ま一ま乃ま
あまのまとま軍ま將まとまらまとまてま靴まのま前ま輪まよま

と付く首のしんじつとてくまら

のく地手塚入太郎。うさ蔵のちりすよ

まうてま摺とろくまかしく物

かかろくまらとむとと烈て二

あひま^{あひま}とと落まぬ^{うき}若者のが

あ^あの軍よの志のくまき^あ何よらめ

る粘たろくろくもまむ^ま手塚のま

が^がとろく^{ろく}と。即^即おろ^{おろ}あら^{あら}あひてつ井よ

首^首よか^かた^たと^とわ^わく^くあ^あの^のま^まら^ら乃^乃あ^あを

あ^あつ^つく^く敷^敷を^をの^のら^らも^もな^なと^とあ^あと^とあ^あの^のま^まも

か^から^らも^も南^南無^無阿^阿弥^弥佛^佛と^とあ^あら^らひ^ひて^てた^たを

等^等海^海へ^へつ^つと^とあ^あ物^物と^とあ^あら^らひ^ひて^てあ^あら^らし^しる^る人^人

執事 卷之六

一 執事 卷之六

松何の...
深...
あ...
ま...

物望頼も

曲出二ノ拍子トル
位深五

位席

以才...
教へる道も一...
方よびろめ...
具ち入念仏の行者

一遍と申要するていれ...
我...
三...

よしあり。一七日...
素...
證...
成...

通...
あ...
い...
子...
靈...
夢...

蒙...
作...
六...
十...
萬...
人...
改...
定...
は...
す...
の...

抑れ其の國をひらめき
宮の受は伊きまの都へとあらて
あり法隆寺をねらひも三の浦にぞく
もよま立いつく様衣乳の開守のたつる
三の浦に日敷かきあつて時もたれ
下りまのむらもてよ付まをさく
急の行よ是りつち都物お寺なり

軍師

多て人若は伊きてれとほらめりや
男らん 甲かん 方孫や安仏法りつちて
貴賊部集のつちよ神とつね鐘を
つらき初もあつてあつて念仏
味乃道場よ出入ちよのあつかり
可なりは洛陽の花の衣乳に度
心なるまは墨染の 甲上 夕の鐘のちり

稱名抄法 鬼鐘の響 聴流

人音 行乃松尾 どのきく空

かゝれ^{上音}た^{下音}る^{上音}危^{下音}頼^{上音}す^{下音}心^{上音}を^{下音}知^{上音}も^{下音}ち^{上音}

色^{上音}乃^{下音}く^{上音}ら^{下音}は^{上音}す^{下音}く^{上音}陣^{下音}城^{上音}の^{下音}深^{上音}り^{下音}は

志^{上音}ま^{下音}ぬ^{上音}ひ^{下音}そ^{上音}て^{下音}行^{上音}疑^{下音}ひ^{上音}の^{下音}あ^{上音}ら^{下音}く^{上音}時^{下音}は^{上音}り

難^{上音}や^{下音}沈^{上音}と^{下音}し^{上音}も^{下音}ら^{上音}ぬ^{下音}持^{上音}ひ^{下音}ま^{上音}れ^{下音}あ^{上音}ら^{下音}う

し^{上音}も^{下音}物^{上音}も^{下音}ち^{上音}と^{下音}ら^{上音}ぬ^{下音}れ^{上音}と^{下音}い^{上音}ら^{下音}や^{上音}た^{下音}き

か^{上音}く^{下音} ち^{上音}の^{下音}ま^{上音}と^{下音}入^{上音}り^{下音}申^{上音}さ^{下音}る

事^{上音}乃^{下音}く^{上音} 行^{上音}乃^{下音}く^{上音}て^{下音}い^{上音}ら^{下音}う^{上音} 沈^{上音}れ^{下音}と

乃^{上音}れ^{下音}六^{上音}十^{下音}萬^{上音}人^{下音}乃^{上音}受^{下音}付^{上音}ま^{下音}と^{上音}あ^{下音}り

抄^{上音}乃^{下音}六^{上音}十^{下音}万^{上音}人^{下音}乃^{上音}受^{下音}付^{上音}ま^{下音}と^{上音}あ^{下音}り

乃^{上音}れ^{下音}も^{上音}く^{下音}も^{上音}不^{下音}審^{上音}子^{下音}社^{上音}と^{下音}く

乃^{上音}れ^{下音}も^{上音}く^{下音}も^{上音}不^{下音}審^{上音}人^{下音}乃^{上音}受^{下音}付^{上音}ま^{下音}と^{上音}あ^{下音}り

乃^{上音}れ^{下音}も^{上音}く^{下音}も^{上音}不^{下音}審^{上音}子^{下音}社^{上音}と^{下音}く

文のよきまじりて種文のたみり

をせしむ。法にまじりて守南無阿弥陀仏

法にまじりて法にまじりて [#] 相と白法

文とやこしきあるゆゑにさく方ゆ後

くらしの神よまじりて [#] いてく

語て字をまじりて六字名号一遍法

十界依止一遍神萬行部会一遍神

へ守らる妙好奉。法四句の文のよき

字ありて六十萬人と書くまじり

今まじりて不審まじりておの固も照ひ

は陀の教へ [#] 光り遍照十方界ま

まじりて法にまじりてまじりてま

十方人と人教といふてゆきまじり

相にまじりてまじりて法にまじりて

一 益や患障の害のかる身をもたす
一 つ世安樂の國ありや
一 心ろくわき 安樂の國に
一 やまぐさの軍城のうておの強そ
一 神なるや 有難や くらさ
一 ぐく 陸の國す 道すたの
一 頼る 頼る 頼る 頼る

一 利益無量罪 又の経のほりも
一 有りのや 八萬諸の教皆具く
一 有る 有る 有る 有る
一 申あり 申あり 申あり 申あり
一 物持寺と打つ

Handwritten text in Arabic script, likely a list or index, with several lines of text. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. There are some red markings and a small red stamp or mark on the page. The text is arranged in approximately seven lines, with some characters appearing to be in a different script or dialect.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. There are some red markings and a small red stamp or mark on the page. The text is arranged in approximately seven lines, with some characters appearing to be in a different script or dialect.

上人のつづり傷りあひ跡は松泉寺
秋うらやま石塔のいしの火入きつと
在よまはまきりく 佛教のまをせ

物類寺と打たる頼のまき六字を

名号と書付てはあまうつとせむ

うらやま異音書しつとせむ

うらやま音書しつとせむ

うらやま見よつとせむ
頼とつと鐘うらやま周音よ 南号と
あまうらやま松泉寺 あまうらやま松泉寺
名号やあまうらやま松泉寺の馬松の
名号と頼つとて佛前まきりく
うらやま秋うらやま松泉寺の馬松の
あまうらやま松泉寺の馬松の

佛 見 歡 慶 亦 了 燈

中 歡 佛 又 此 此 此 此 此 此

よるれらうてきま名と天報とふく其
後天より報の報降らるる。てつきの祥
妙ありて世人感とふらるる。海由帝
まじらうたれ報を内裏よりせしう
天報うくに行ふ報とてたひりよく
せらぬがも行くうま地ありん。官
人といふらうち天報とて言吹の

ほよちのめ報との内裏よりせし河房殿
雲龍園より入るれらる。よまは報報
しうとせらるるもした更なる事あり
がらねまれあまらと敷いひらるる
あつ回報女の又王伯とらるる。つとま
あまら言を言てまうせ。唯しわらるる。私
もらるとあまら。露のあまら。あまら。

Handwritten text in Arabic script, top line.

Handwritten text in Arabic script, second line.

Handwritten text in Arabic script, third line.

Handwritten text in Arabic script, fourth line.

Handwritten text in Arabic script, fifth line.

Handwritten text in Arabic script, sixth line.

Handwritten text in Arabic script, seventh line.

Handwritten text in Arabic script, eighth line.

Handwritten text in Arabic script, ninth line.

Handwritten text in Arabic script, tenth line.

Handwritten text in Arabic script, eleventh line.

Handwritten text in Arabic script, twelfth line.

Handwritten text in Arabic script, thirteenth line.

其の初めは... 其の終りも...

若くはあまの磯江雨の神もあまを
草衣もさうらふてその甲斐ぬす
まよぼす罪科のちかみあれわのまの
時つ報の規ごも思らまらさるる物あれ
報の時も物もあつと後とあつと先人
よまひて報うのちかみさるる人
君のまもも勅命の若れ時を移すあま

いひて報うまよまらるるあま
波乃まらるる敷も夕月乃雲龍圖の
まらるるあまのあまのあまの
若乃あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
思辨やま持乃あまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

にまゝにありて龍顏より御覽せしむるに
方難事旨付 せりや若人唯し教の音の
ゆゑに事難し教よ教と出るを尋ね問若人
あはれ教の空を下さる也まゝに夫教の
跡とては管轄悔みして却りひきかき
この勅候なりべり易くも教を先人の
私にもゆりて人旨付 意の難やんゆりて

若人よ私にもゆりて人旨付 意の難やんゆりて
夫教の空を下さる也まゝに夫教の
跡とては管轄悔みして却りひきかき
この勅候なりべり易くも教を先人の
私にもゆりて人旨付 意の難やんゆりて

海つゝ雲の波きららきよか呂吹れ埋り
月子唄のいろまたよき波きらら神を
さしとや夜遊の舞樂と時きくお更
の一点鐘をなう鳥ち八色のほのくと
おきのちて心附の報救の六のちりま
れ舞をきくうらよとて現り安かきうら
うらと現る言まのゆととをゆきけき

右百番者觀世たのふまき當流
以章句本寫之予秘密拍子付
尚加吟味改正又字板行考也

延寶八年 庚申仲夏吉辰

寺町通誓願寺前

安田十兵衛板本

